資料３-２

○第6期「藤沢市地産地消推進計画」（素案）からの変更箇所等一覧表

0	ページ	提案者	該当箇所	前回会議・意見照会での意見等	変更点・考え方	変更内容	
						前	後
1	全体	事務局			・文脈上違和感がない限り文言の統一（例：「農水産物等」「市内農水産物」「藤沢産農水産物」→「藤沢産農水産物等」に統一） ・内容に影響がない言い回し及び誤字脱字等の修正 ・写真の変更・追加		
2	6	森委員	第2章　藤沢市の農水産業 1　藤沢市の農水産業の現状 （2）水稲	「キヌヒカリ」は奨励品種から抹消され、あらたに「にじのきらめき」が指定されている。また、「はるみ」は高温により生産量が減少、「てんこもり」は生産拡大が期待されているとはいいがたい状況。	「キヌヒカリ」については削除。「にじのきらめき」についての説明を追記し、「にじのきらめき」の生産拡大について言及。	P.6 本市の水稲うるち米は、神奈川県の奨励品種であるはるみ、キヌヒカリが中心に生産されており、その中でも、「はるみ」は県内で開発され、日本穀物検定協会が実施した2016年（平成28年）産米の「米の食味ランキング」で、県内産として初となる最高評価の「特A」の評価を獲得し、近年生産量が増加しています。また、令和2年11月に神奈川県が新たに「てんこもり」を奨励品種に決定し、今後の生産拡大が見込まれています。収穫量のほとんどを直接取引や自家消費（縁故米等を含む）が占め、農協への出荷は収穫量の1割程度と推測されます。	P.6 本市の水稲うるち米は、神奈川県の奨励品種であるはるみ、てんこもりが中心に生産されており、その中でも、「はるみ」は県内で開発され、日本穀物検定協会が実施した2016年（平成28年）産米の「米の食味ランキング」で、県内産として初となる最高評価の「特A」の評価を獲得しました。また、2025年（令和7年）11月に神奈川県が新たに高温耐性品種「にじのきらめき」を奨励品種に決定したことから、今後の生産拡大が見込まれています。収穫量のほとんどを直接取引や自家消費（縁故米等を含む）が占め、農協への出荷は収穫量の1割程度と推測されます。
3	6	みどり保全課		生物多様性について ・広報ふじさわの特集号でも触れていただいたように、農業水産業（特に水田など）と生物多様性については、関係が深いことから、P6やP42あたりで、「水田の保全は、生物多様性を守る上でとても重要」である旨の記載を是非、お願いいたします。	6ページにて水田の持つ多面的機能の紹介や、重点施策の説明における多面的機能理解促進の一例で追記。		P.6 また、水田は、①洪水や土壌浸食を防止②地下水のかん養や水質の浄化③生物多様性や土地空間を保全④伝統文化の保存・振興など、多面的機能を有し、水稲生産以外の役割も担っています。
4	6	事務局			多面的機能理解促進を重点的に取り組む施策に掲げたため、水田の持つ多面的機能について追記。		
5	7	事務局	第2章　藤沢市の農水産業		藤稔について、かながわブランドに登録されたことを追記。	P.7 ブドウについては、「藤沢生まれの藤稔」が最も有名ですが、	P.7 ブドウについては、「藤沢生まれの藤稔」が最も有名で、令和7年度にはかながわブランドにも登録されました。しかしながら、
6	18-29	事務局	第3章　第5期計画で実施した取組と進捗状況		【具体的な取組】と【進捗状況】について別々に項目立てて記載していたところを、まとめて記載する表現に変更。		
7	26	事務局	第3章　第5期計画で実施した取組と進捗状況		（エ）漁業の担い手確保の項目について、水福連携の実績を追記。		P.26 また、特定非営利活動法人「江の島・フィッシャーマンズ・プロジェクト」と連携し、かながわ水産業福祉連携事業として、市内福祉事業所に海業のパンフレットの折り作業を委託し、水福連携を支援しました。
8	29	事務局	第4章　第6期計画に向けた施策の検討について		藤沢市都市農業振興基本計画との整合・棲み分けを行う旨を追記。		P.29 施策検討にあたり、藤沢市都市農業振興基本計画との整合・棲み分けを図るため、一部重複する施策（主に農業者支援に関するもの）について、第6期計画では削除いたしましたが、藤沢市都市農業振興基本計画における施策として継続いたします。
9	29	宍戸会長	第4章　第6期計画に向けた施策の検討について	高温耐性品種の導入の相談や、実際に決定するのは県や生産者なので、市がここを新規要素とは出来ないと思う。表現を検討した方がよい。	新品種の導入～持続可能な一次産業の実現については、記載の見直し・都市農業振興基本計画との棲み分けを図るため削除。		
10	30 40	事務局	第4章　第6期計画に向けた施策の検討について 第5章　第6期計画における施策		「公立中学校給食の全員制移行」については、「立ち止まることとした事業」として、公式発表があったため、文言を変更。	P.30 公立中学校給食の全員制移行の機会を捉えて供給強化を図るため P.40 全員給食を予定している中学校給食においても	P.30 中学校給食センター建設による需要拡大を見据えた供給強化を図るため P.40 建設予定の中学校給食センターにおいても
11	32	学校給食課	第4章　第6期計画に向けた施策の検討について	検討事項の中に「学校での農水産業体験」を盛り込めないか。あわせて5章の計画における施策についても検討できないか。	課題に第5次食育基本計画における農林漁業の体験について追記。 あわせて、重点的に取り組む施策の一部取組名を修正	P.40 イ　生産者等との交流による藤沢産農水産物等への理解促進	P.32 （カ）第5次食育推進基本計画（農林水産省）において、農林漁業の体験を進機会を提供することが求められている。 P.40 イ　農業漁業体験及び生産者等との交流を通じた藤沢産農水産物等への理解促進
12	37	甘粕委員	第5章　第6期計画における施策	藤沢産マークのわかりやすさは非常に重要。郷土愛のある方なら、多少高くても手に取りやすくなる。この取り組みは引き続き続けていただきたい。			
13	37	尾島委員	第5章　第6期計画における施策	藤沢産マークについて、確かに取り組み開始から数ポイント上昇したという実績はあるが、数値は横ばい。なにか取り組み方を変えていく必要があるのではないか。	制度開始から時間が経ち、生産者の意識も落ちてきているかもしれない部分があるので、今一度協力を求めていきたい。		
14	37	山田（大）委員	第5章　第6期計画における施策	先日の会議で藤沢産シールの普及について各委員から意見があり、青果物の普及について調査いたしました。 わいわい市藤沢店では現在3名の生産者しかこのシールを貼っておらず、ほぼ貼っていない状況です。 再度、生産者にお願いしていくことが必要と感じました。 湘南藤沢市場に入荷するJAさがみ管内の荷は広域のため、藤沢市だけに限定してシールを貼ることが難しい状況です。また、店舗では藤沢市フェアーを取り組んだ時はシールの活用はできますが、中々限定的です。 藤沢の生産者が集まるわいわい市藤沢店が効率が良いと思います。生産者への説明には私もご協力しますので、ご検討のほどよろしくお願いいたします。			
15	38	山田（大）委員	第5章　第6期計画における施策	新鮮なものがいいという話だが、正直市民が食べて青果物で違いが判るのは果物のみ。葉物は特にわかりにくい。野菜だとトウモロコシぐらい。	むしろ味がわかるもの（トウモロコシ・エダマメ）についての新鮮さのメリットを積極的に周知したい。味がわからないものについても、栄養価の数値などで新鮮さのメリットをPRしていき、地産地消の良さを広めていきたい。		

16	38	尾島委員	第5章　第6期計画における施策	利用推進店について、根本的に考え直すとか、方向性があまり見えてこない。スポット的な施策に落ち着いてしまうように感じる。	利用推進店については、あくまで藤沢産農水産物等の利用を促進するための一事業。店舗数の増加を目標としているため、運用などこまかな点についてはブラッシュアップしていきたいと考えているが、根本的に見直すということの予定はなし。		
17	40	大石委員	第5章　第6期計画における施策	体験とともに、子どもたちが楽しく学びながら、遊びながら、食材に興味をもっていくという施策を期待している。	学校等での農業水産業体験については、国の第5次食育推進基本計画にも盛り込まれているため、地産地消計画に追記。(No.11) 体験からさらに深めた食の学びの部分では地産地消というよりかは食育の要素が大きくなる。		
18	40	土屋委員	第5章　第6期計画における施策	子どもたちが直接農業に触れる体験が増えるといいと思った。	No.11のとおり		
19	41	山田(大)委員	第5章　第6期計画における施策	小学生向けの市場見学をしているが、トマトなどの試食ができたらと思う。給食では必ず調理しなければならず、生で食べるおいしさを知ってほしい。	野菜の生食については、保健所の基準を満たす必要があると考えている。市の計画であるので、その部分を落とし込むのは難しい。		
20	41	山岡委員	第5章　第6期計画における施策	辻堂朝市ではミニトマトすくいというようなイベントをやっている。すくったものをそのまま食べるというような取り組み。こういったものをイベントなどでできるといいかも。			
21	41	大石委員	第5章　第6期計画における施策	高い安いの値段だけではなく、品種による違い(煮込みに向く品種・生食に向く品種・栄養価の高い品種など)など興味を持ってもらう発信が重要。教科書的な発信ではなく、身近な中にヒントがある気がする。	収穫体験講座などでは、収穫物の種類や特徴などを生産者から講話をいただいている。また直売イベント等により、生産者との交流機会を提供することで、市民の学びにつながる。やはり生産者の知識を活用していく形が望ましいと考える。		
22	41	森委員	第5章　第6期計画における施策	第6期藤沢市地産地消推進計画　1　重点的に取り組む施策において、(3)「農業水産業の多面的機能理解促進」があります。 農業の多面的機能と聞くと、新鮮で安全・安心な食料等の供給と、良好な景観の形成、防災、国土県土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、文化の伝承、そして情操のかん養などが考えられます。 お示しいただいた計画案では、具体的な取組として、イベントやふれあいに関連するものが記載されています。 藤沢市都市農業振興基本計画との重複を避けるため、その他の取組を記載しづらいと思いますが、「農業水産業の多面的機能理解促進」と項目出しするには、もう少し取組を記載するか、あるいは「農業水産業者と消費者の交流」などの項目出しが良いと思いました。	単に生産者と消費者の交流イベントだけではなく、広報あるいはその他のイベントに出店し啓発するといったことも考えている。今年度はT-SITE夏祭りにおいて地産地消クイズという催しを実施したり、年度明けに図書館とのコラボレーションによる展示等も企画するなど、さまざまな機会をとらえて周知・啓発していきたい。森委員からの意見を踏まえ、施策の目的の追記。		P.42 農地の有する防災・生物多様性の保全・文化の継承といった役割や、自然共生サイト に登録されたブルーカーボンの取組などの、農業水産業の持つ多面的機能について周知・啓発することで、地域における農業水産業の重要性についての理解促進に努めます。
23	42	みどり保全課	第5章　第6期計画における施策	自然共生サイトについて ・P42やP44で触れられている「ブルーカーボン」や「藻場」の取組において、県内初の海域における「自然共生サイト」に認定されている旨に触れられてはいかがでしょうか。	水産業の持つ多面的機能として、施策の目的に追記しました。		
24	43	大石委員	第5章　第6期計画における施策	ブランド化ができるものは実は埋もれているのではないか。例えば大庭の梅など。	かながわブランドの認定だけで言えば、①組織的で安定的な供給が可能である②品評会や栽培講習会などで品質の向上を目指しているといった要件が定められている。要件を満たせるのであればぜひ登録を。		
25	43	石川委員	第5章　第6期計画における施策	ワイン特区について、メイヴのみでワインを作るということが非常に厳しいように感じる。出口についても検討したうえで、他の品種の栽培したとしても平等に優遇が受けられるようにしてほしい。	構造改革特区制度は、市町村(あるいはそれより広域)に対して認定を受けるもの、またワインに使われるブドウの品種は問われず、ワインの製造量に対して規制緩和が設けられる制度。構造改革特区制度において、ワインの製造の規制緩和がされた際には、藤沢産ワインをPRする事業を展開していきたいと考えている。		
26	46	甘粕委員	第5章　第6期計画における施策	目標設定について、多面的機能の理解促進の効果については可視化するのは非常に難しいのではないか。きちんとした位置づけが必要。	地産地消計画の最終的な目標は、「藤沢産のものを手に取ってもらうこと」であり、直接的な効果測定は難しいかもしれないが、地産地消アンケート結果にて、効果について検証できるのではないかと考える。また、今年度実施のアンケートから、多面的機能についての認識を問う項目を追加したため、そちらでも効果を測定していきたい。		
27		尾島委員		これまでの取組をさらに発展させるためには、各施策を個別に進めるだけでなく、農業・給食・食育・環境・SDGs・地域活動等を横断して、市民が「藤沢産を知る」から「藤沢産を選ぶ・応援する」までの行動につなげる仕組みが必要ではないか。	3つの重点施策は独立したものではなく、重なる部分も多く、施策ごとに取組を記載しているのは便宜上。ひとつの施策で、複数の目的を達成することは可能かと思う。ご提案いただいた事業も一つの例として受け止める。		